



水平線

眠れない夜には 君をさらいにゆこう
街を飛び出して 海を見に行こう
日が昇るまでには たどり着くだろう
真夜中のハイウェイ 南へ乗り継いで
風が出てきたぜ
ラスポスも出てくるみたいだ
水平線をなぞった日の出を
僕らいつまで心に刻めるかな
水平線をなぞった日の出を
僕ら何処まで追いかけてゆけるかな

路肩に車を 少しだけ停めて
波の音だけを 聴こえるようにして
溶け始めた月 逃避行の果てに
生きていることの さりげなさを知った
窓を開けたなら
闇と光が混ざり合った
水平線をなぞった日の出を
僕らいつまで心に刻めるかな
水平線をなぞった日の出を
僕ら何処まで追いかけてゆけるかな

水平線をなぞった日の出を
僕らいつまでも心に刻むのさ
水平線をなぞった日の出を
僕ら何処までも追いかけてゆけるのさ

仮ロックロール

夜のどこかへ隠すように 涙をこぼした
愛しきあなたの唇に 今走れよ イエス、ロックンロール

例えば人ごみの中ならば この声は届かないように
世界はあまりにも雑多だから 通り過ぎる事ばかり増えてゆく
多くなりすぎた言葉たちが ビストルの弾にすり替わる
心を買いた傷跡の 痛みの置き場所を探してる
ラジオからステレオから SNSの片隅から
もしも聴こえたその時には どうかその身を委ねてくれな
夜のどこかへ隠すように 涙をこぼした
愛しきあなたの唇に 今走れよ イエス、ロックンロール

歩き続けてきた日々の中 当然のように蹴飛ばした
石ころみたいなその思いも 打ち明けられる日を待っている
例えば人ごみの中ならば この声は届かないように
世界はあまりにも雑多だけど 立ち止まる場所に咲く花がある

「ありがとう」も「愛してる」も
風に吹かれたら飛んで行く
言葉足らずな事ばかりで 明日が見えないまま眠るなら
空の彼方へ祈るように 光を放つよ
愛しきあなたの哀しみを 今照らせよ イエス、ロックンロール
ラララ…
愛しきあなたに微笑みよ 今届けよう イエス、ロックンロール
イエス、ロックンロール
ラララ…

今夜いつまでも

いつか君がこの町を離れる時が来るとしても
僕ら寂しくならないように この夜をグラスに注ぐんだ
想い出はいつか遠い星になって
誰かの想い出と一緒に星座を作るだろう
いつまでも いつまでも いつまでも
君の事を待っているから
いつまでも いつまでも いつまでも
忘れないうちに乾杯しようぜ

想い出はいつか満月になって
ひとりぼっちの帰り道を照らすだろう
いつまでも いつまでも いつまでも
君の事を待っているから
いつまでも いつまでも いつまでも
忘れないうちに乾杯しようぜ

酒はやめた

屋過ぎ夕方近くになっても 僕は全く使い物にならない
幸せな昨日は何処へやら 残っているのは修羅の如き二日酔い
何時からともなく記憶が飛んでいる 誰かに迷惑をかけた気もする
インターネットで治し方を調べても 画面を見るのが苦痛なほどの体たらく
ビールに焼酎ハイボール レモンチューハイにパーボロック
胃袋をミキサーにして血管の中を駆け巡る
酒はもうやめた 酒はもうやめたんだ
酒はもうやめたって言っても やっぱり呑んじゃうよね 乾杯!

吐いたら楽になれるのは知っている でも 吐いたら何だか負けた気がする
明らかに水分が足りない 今日に限って冷蔵庫には何も無い(ボン酢しかない)
そろそろ出かかなくっちゃいけない 服を着替えたりしなくっちゃいけない
いつものクオリティの人生に責任持てなきゃ大人だなんて言えっこない
ビールに焼酎ハイボール レモンチューハイにパーボロック
曖昧な記憶を辿れば またアルコールがこみ上げる
酒はもうやめた 酒はもうやめたんだ
酒はもうやめたって言っても やっぱり呑んじゃうよね 乾杯!

ビールに焼酎ハイボール レモンチューハイにパーボロック
日本酒泡盛モスコジントニ 結局テキーラテキーラテキーラ

酒はもうやめた 酒はもうやめたんだ
酒はもうやめたって言っても やっぱり呑んじゃうよね
酒はもうやめた 酒はもうやめたんだ
酒はもうやめたって言っても やっぱり呑んじゃうよね 乾杯!

Hey! タクシー

Hey! タクシー あの子のところに
一直線に向かっておくれ
Hey! タクシー 急いでいるのさ
もう寄り道なんかはウンザリだから

寂しさは夜を飲み込んで
ひとりぼっちの月が欠けていた
ロクデナシは終電を逃した頃に
やっと優しさに気づいたのさ
こんな夜に限って街はとてつもなく綺麗さ
会いに行ってもいいかい 今更間抜けだけど
Hey! タクシー あの子のところに
一直線に向かっておくれ
Hey! タクシー 急いでいるのさ
もう寄り道なんかはウンザリだから

「君の為に何が出来たのか」なんて
何でもできる奴のセリフだから
何もできない愚かさゆえに
空回り覚悟で走り出す
愛しいあの子が眠りにつく前に
哀しい夢なんて見なくていいように
Hey! タクシー あの子のところに
一直線に向かっておくれ
Hey! タクシー 急いでいるのさ
もう寄り道なんかはウンザリだから

オレンジライト

ボーイ 君が見つめる世界の向こう側を
僕はどれくらい知ることが出来たかな
ボーイ 僕が居なくなっちゃった次の朝に
どんな夢から君は目覚めるのかな
ボーイ 市民公園の滑り台の下あたりで
夕暮れの中見つけた宝物は
ボーイ いつの間にか何処かに落っこしたままさ
交番にも届けられてないらしい
夜に追っかけられた急行が過ぎか
窓際に友達を見つけた気がした
ゴールをわずかに外したサッカーボールの行方を
随分の間見つめていた少年
それはいつかの僕でありそしてどこかの君であり
誰もが一瞬目にするオレンジライト

ボーイ わがままを受け止めてくれた人達を
笑顔にするにはどうしたらいいのかな
ボーイ 半端なままで会えなくなっちゃった
あいつに最後に何を伝えたんだっけな
ボーイ 言葉足らずは今も変わらないよ
ちょっとしたこと傷つき躊躇してしまう事
ボーイ だけど僕が傷ついてしまおう事
僕以上に哀しみ怒る人と出会えたんだ
遠い日の風が地球をひと回りして
この町にまたやってくるように
空気の抜けた自転車を押して歩いた帰り道
それでも夕飯には間に合うだろう
失っただけ出会って なくした分だけ拾って
見上げた電線の隙間 オレンジライト

いつまでも変わらないはずだった景色の記憶
思い出したその数だけサヨナラを告げる

ゴールをわずかに外したサッカーボールの行方を
随分の間見つめていた少年
それはいつかの僕でありそしてどこかの君であり
誰もが一瞬目にするオレンジライト

舟

ゆらりゆらり舟はゆく
時という河の上を
ふらりふらり鱗雲は
ただ君を探している

心のどこかに隠れた 寂しさをそっと水面に浮かべ
風吹くままに流してしまえば それも哀しくて
見えるものを感じて 聴こえるものを掴んで
それでも足りないから想いを馳せるよ
ゆらりゆらり舟はゆく
時という河の上を
ふらりふらり鱗雲は
ただ君を探している

空は今も相変わらず 変わりゆく色を繰り返す
まるでそれは誰かの命の始まりから終りのように
旅は遠く続く 形を失っても
いつか又君の事見つけられたらいいな
ゆらりゆらり舟はゆく
時という河の上を
ふらりふらり鱗雲は
ただ君を探している

